

## HTB+むかわ町 Top Interview

北海道テレビ放送 (HTB) ×北海道むかわ町

\*Hybridcastは、NHKの登録商標です。

# 地上デジタル放送波 Hybridcastテクノロジーを利用し 「むかわ町」全町民へデータ放送で情報提供

2023年4月から、北海道勇払郡むかわ町は、北海道テレビ放送 (HTB) とジャパンケーブルキャスト (JCC) が共同で開発を行う、Hybridcast技術を活用したデータ放送サービスを全町民向けに提供開始した。むかわ町は2018年に「北海道胆振東部地震」に見舞われ、停電や崖崩れなど大災害を経験し、現在、復興過程にある。今回のサービスにより、HTBのデータ放送を活用し、むかわ町の全住民に情報を提供することが可能になる。本取り組みについて、竹中むかわ町長、寺内HTB社長にInterviewした。  
(文責:天野昭・本誌発行人/Interview+Photo:天野昭:取材協力+資料提供:JCC/取材日:2023年4月6日)

## むかわ町 Interview



## 竹中喜之

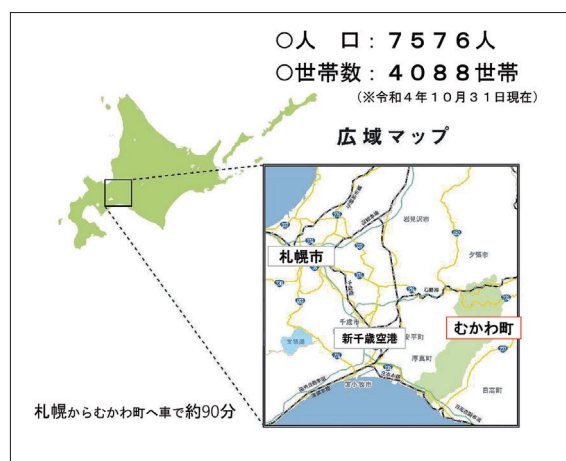
Takenaka Yoshiyuki

北海道むかわ町長  
北海道防災協会会長  
北海道治山林道協会会長  
北海道自治体情報システム協議会副会長  
にっぽん恐竜協議会会長

### 日本初への挑戦

**天野** 日本初の、Hybridcast技術を利用したデータ放送への取り組みはどのような経緯から始まったのですか。

**竹中** 2018年の北海道胆振東部地震で、むかわ町も大



きな災禍を受け、町民に速やかに情報提供をする必要性を痛感しました。震災後、難視聴地域である穂別地区の住民への情報提供の仕組みとして、各戸に情報端末を設置していましたが、機器の老朽化への対応として、新たなIP告知端末を2021年に導入配置しました。併せて、スマートフォンアプリも導入しLINE連携等を行うなど、情報提供の多重化を図り、一部、全町的な情報提供サービスの向上へ努めました。

(参考:アプリのダウンロード数は約1,500件、人口割合で20%弱、目標は50%以上)

しかし、運用する中で、新たな課題も見えてきました。課題解決に向け、検討している際に今回の取り組みのお話がありました。

**天野** これまでのむかわ町の住民に対する情報提供の方法、課題はどのようなものでしたか。

**竹中** むかわ町は、旧鶴川町と旧穂別町が合併して誕生した町です。地形も異なっているため、情報提供の仕組みに違いがあることが、大きな課題でした。また、2021年に新たな仕組みも導入しましたが、スマートフォンを持っていない方、高齢者などへの対応等、情報過疎を生まない対策も必要だと感じていました。町民誰もが同じ情報を取

得できるようにすることが大切です。

情報提供の内容と方法については、災害情報や、ここ数年では新型コロナウイルス情報や関連した生活情報等を主に提供を行ってきました。鶴川地区は、海沿いの地域で平地部が多いことから、主に同報系無線(屋外スピーカー)を使用し、防災無線による情報提供を行っていました。一方、穂別地区は、山間部のため、同報系無線による周知は地形上難しく、光回線(光ケーブル)を通じて、情報告知端末を配置し、情報提供を行っていました。

## まず地震災害からの復興

**天野** むかわ町地域振興の主眼点はどんなことですか。

**竹中** むかわ町は現在、特に子育て支援、恐竜化石を活かしたまちづくり、防災を起点にした防災先導のまちづくりを大きな柱に掲げています。また、北海道胆振東部地震で被災した町として、復興は道半ばであることから、最優先としての取り組みは、「まちなか再生」です。まずは穂別地区をスタートとして、「復興拠点施設等整備事業」に取り組むこととしています。さらに、震災から得た経験、教訓をまちづくりの未来につなぐため北海道で初めてとなる「事前復興計画」の策定にも着手することにしています。町民と「共創」しながら進めていきたいと考えています。

**天野** データ放送提供に踏み切ったかがですか。

**竹中** 生活に密着したテレビ操作で365日いつでも必要な情報を得られるため、町民も肌身で地域DXサービスの恩恵に浴することができると思います。

全国で初めてのことなので、得られたノウハウは全国の自治体に公開していくつもりです。

むかわ町専用 Hybridcastのトップ画面イメージ



## HTB Interview



## 寺内達郎

Terauchi Tatsuro

北海道テレビ放送(株) 代表取締役社長 / 編成・報道情報 統括

## 先進性は、Hybridcast技術の活用

**天野** 輝かしいHTBの報道番組制作・提供の歴史の中で、むかわ町の事例の先進性はどこにあるのでしょうか。

**寺内** テレビのデータ放送による自治体情報配信の事例は数多くありますが、むかわ町の事例では自治体の防災システムの一部としてHybridcastを活用している点に先進性があると考えています。通信サービスという特性を生かし、データ放送と比べて高画質で、きめ細かな画像を表示できるなど、多くの情報を分かりやすく提供できます。また、専用端末を用意することなく、ご自宅のテレビを活用することで低コストで実現しています。さらに、データ放送とHybridcastを組み合わせているため、災害時等で通信が切断された際、データ放送だけでも最低限の情報を提供できるようにして、高い可用性も実現しています。

北海道は国土の22%を占める広大な面積がありますが、住民が生活するエリアのほとんどを地上放送波でカバーしており、テレビは広く情報を伝達するのに最適なメディアです。また、テレビ受信機は、地域ごとに情報を出し分けできる機能を有しています。メディアで番組を送り届けることにとどまらず、誰一人取り残されることなく伝える必要がある災害・防災情報を伝達することにより、住民が安心、安全な生活を送っていただくことに貢献することができます。また、日頃より、生活に密着した情報もお伝えすることで、普

## HTB+むかわ町 Top Interview

段使いの便利な情報端末としてもご活用いただけます。

### テレビメディアの価値向上


**天野** HTBにとっての経営上の意義(収入構造へのインパクト)はどの辺にあるのでしょうか。

**寺内** 放送業界では新たな分野のビジネス開拓が求められている中で、今回、HTBとJCC双方のノウハウを持ち寄り、新たなサービスを生み出すことが出来ました。経営上の意義は、テレビメディアの新たな領域における活用によるテレビの価値の向上です。

また、既に整備されている信頼性の高い放送網を活用し、ご自宅にあるテレビ受信機を活用することで、一からインフラを整備し、専用端末を配布するコストが節減できます。収入については、テレビを活用した伝送システム

の構築や維持運営にかかるコストについて、サービス利用という形でご負担いただくことで考えています。北海道には179の自治体があり、可能性は大きいと考えています。

**天野** HTBのむかわ町での情報提供サービスは、他の地域にも普遍化できるものです。今後はどのような展望をお持ちですか。

**寺内** 北海道胆振東部地震で大きな被害を受けたむかわ町にご採用いただいた意義は大きいと考えています。まずは、むかわ町でスタートしたこのサービスを、住民に価値を感じてもらい、生活に根付いてくようにしっかりと運営してまいります。また、近年では全国各地において災害が頻発し、生活が脅かされている状況です。一人でも多くの住民が安全・安心で、そして便利に生活していけるように、他の自治体についても広げていければと考えています。 

むかわ町・HTB データ放送・Hybridcast 配信のフロー図



むかわ町・HTB データ放送・Hybridcast システム構成図

